

## 第2回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成24年12月11日（木）17時00分～18時10分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、池田孝一、金内淳、齋藤すぎ、日野淳、小野寺博
- 4 欠席委員：日向ゆき
- 5 事務局：図書館長、主査、主任

進行：主任

### 1 開会 主任

### 2 あいさつ

#### ○館長あいさつ

今年度図書館創立100周年を迎え、大きなイベントはないが、皆様からお力添えいただき100周年記念事業を実施した。今日配布した「庄内町立図書館100年のあゆみ」は、見やすくわかりやすくできないかとこんな形にさせてもらった。多くの人たちのお力によって、100周年を迎えられたのだということと学校との連携もそこに見えてくる。100周年の大きな節目にこの冊子を残せて良かった。今日の会議は、年度途中だが忌憚のないご意見をお願いしたい。

#### ○委員長あいさつ

100周年ということで、広報への特集号の掲載はじめ、この図書館100年のあゆみの冊子を創り上げてもらい、中身が形となり完成しうれしい。本日の会を有意義な会としていきたい。

### 3 報告事項

(1) 平成24年度庄内町立図書館100周年記念事業について

《事務局説明》

#### ○(1)の資料について説明

(委員長) 今説明いただいた内容について、質問、意見をいただきたい。「庄内町立図書館100年のあゆみ」については、後日皆様からゆっくり読んでいただきたい。

意見は特になし

### 4 協議事項

(1) 庄内町立図書館の運営全般について

《事務局説明》

#### ○(1)の資料の内容説明

(委員長) 説明いただいた図書館の運営全般について、皆様から質問、意見をいただきたい。

《協議の内容》

(委員) 入館者の状況だが、広報100周年の特集号に、ある方が子ども時代に図書館は逃避す

る場所として利用していたと記載されていた。私が定年になった当時は、学校帰りに10人もどっときてわいわい帰っていく、今はそういう光景は余り見られなくなったと思う。インターネットやゲームなど子どもたちの居場所も以前と変わってきたのではないか。図書館でも色々なサービスに努力しているのだから、前年度比較も大事だが、来館者数の人数に神経質にならないで、運営をやればよいと思う。

(委員) 以前だと、記念館にぞろぞろ多数やってきて自由にしている人達がいた。図書館の来館者数を出すことより、図書館に目的を持ってくる人、資料を活用してくれる人のことなど考えてやってほしい。

(委員長) 子どもたちの人数に関していえば、学校図書館の蔵書等の充実により、子どもたちが来なくなったというのは、別の観点から喜ばしいことだと思う。まだ一般町民で図書館に来たことがない人とか、時間に余裕がある人にターゲットを向けていけばいい。インターネット予約も未知の部分であるが拡大することを期待している。

(事務局) 100周年の記念の年にあたり、11月から図書館ホームページのリニューアルとインターネット予約の開始を行っている。本の予約は、貸出中のもののみ予約可能であるが、まだ課題も多い状況にある。

(事務局) 町民大学文学部で、樋渡浩氏によるおらほのことば講座も、今年3年目で一区切りと考えている。来年度の文学部はどのような内容がいいか現在検討している。

(委員) 1回の講座が20人位とすれば、文学部講座の会場を響ホールでなく、内藤秀因水彩画記念館にしたら、来館者も増えるしどうだろうか。

(委員) 土田義晴さんが、この記念館の展示場を見てここがいいと感じたように、鑑賞しようという気持ちになる。またとないいいスペースだと思う。

(委員) 以前山形美術館の設計を手掛けた建築の専門家に、この図書館が狭いので増築できないかと相談したところ、図書館や美術館が街の真ん中にあるのは、騒々しく、鑑賞しようという心の準備は、そこに行くまでの道程、空間が大事なので、その方はここに増築しても賛成できないということで、実現しなかった経過がある。

(館長) 記念館では、特別展として町民ギャラリー的に活用している。今回1月から庄内総合高校の書道や華道、絵画の部門で展示協力していただくことになっている。生徒の自主的なやり方で活かしながら、大がかりに使ってもらうことはいいことだと思っている。この記念館の本来の目的で来てもらうのは容易でなく、この機会にたくさんの方々から来館いただきたいと思っている。

(委員) 旧余目時代から、芸文協でも長く携わってきたが、文学に取りくむ人は少ない。山蔦さんなどいた時代は、個人で作品を出したり、冊子を出したりある程度活発だったが、世代も変わった。芸文協でも、日本の言葉で表現する習慣は大事ということで、子どもたちに俳句、短歌に興味を持ってもらう事業を実施し努力してきたが、主催する側が高齢化してできなくなった。図書館として、文学部はふさわしい。このような講座にたくさんの人から積極的に参加してほしいと思う。

(委員) 例えば、自分史を作ろうというのはどうか。文章を作る初歩の段階から指導をもらい、

一人一人の本を作るのもおもしろいかもしれない。

(委員長) 図書館に入ると、もっと大人向けに視覚に訴える工夫が必要なのではと思う。どんな本があるのかなとか話題の本はどうなのかなとか感じる事があれば、記念館にもこの先何があるのかな、入ってみようと思うのではないかな。

(館長) 広報しようないにあなたの図書館コーナーなどを企画し、カウンターにもそれらの本を配置し見せる工夫で試みてはいるが、もっと魅力のあるものにできればいい。また、女性向けには料理や月刊誌とか種類があるが、男性向けの月刊誌などは不足していると感じている。

(委員) 庄内町は、農業の町なのだから、退職した人達が農業やガーデニングなど興味のあるところをどう取り込むかだと思う。また、自分史もある程度自分が勉強し、簡単な方法で日記をまとめようとか、ささいなことからひとつの形にしていくと充実感があり膨らませられる。図書館でそのような提供が可能であればいいと思う。

(委員) 自分史だとおおげさになるので、日記につけたポイントを散文詩にして編集し冊子にまとめる、このような方法なら講座としてできるかもしれない。昔はここで製本とかしたので、道具はあるので簡単にできる。

(委員長) 男性向けの雑誌が不足とすれば、蔵書は他図書館から取り寄せられるので、取り組んでみたらどうだろうか。ここは、農業の町、この部分だけはそろっているというところがあったいい。

(委員) 図書の種類やそういう方々のニーズに応えようとする、図書館では何年かすると整理しなければならぬ本がどっと増える。来館者を増やすための施策として週刊誌等増やすことは、本来の公共図書館の姿なのかむずかしいところである。

(委員) 仕事をリタイヤしている人が、新聞、雑誌のスペースに時間は関係なくたくさんきてくれる。ただ、そういう方々も高齢化して来なくなってくることもある。

(委員) 子どもたちは、俳句、短歌などのコンクール募集があり、夏休みに応募している。最近聞いた話で、自分の思い出をエンディングノートに書き、自分の生きた証を残すという、そういう思いを綴るのもいいかなと思う。図書館からはいつも必要な本等をお借りしありがたい。

(委員) 読み聞かせボランティアをしているが、最近介護福祉施設からも読み聞かせにをお願いされる。来週読み聞かせボランティアの情報交換会があるので、一つ一つのボランティアが情報を持ち寄ったら、財産になっていける。この町の規模だからこそできるので、ソフト面の機会を設けてほしい。

## (2)その他

特になし

## 5 その他

《事務局説明》

次回開催日程：平成25年2月下旬

## 6 閉会 池田主任